

備前市施策評価シート

施策名 (小項目)	文化財の保存と活用	コード	作成者	役職	生涯学習課長
		03-03-02		氏名	有吉隆之
			電話	64-1841	
			このシート作成に要した時間	2.0	時間

この施策の アピール ポイント	本市には、日本を代表する焼物「備前焼」や近世の教育資産「閑谷学校」、また多くの文化財があり、後世に保存するとともに広く活用していく。
-----------------------	--

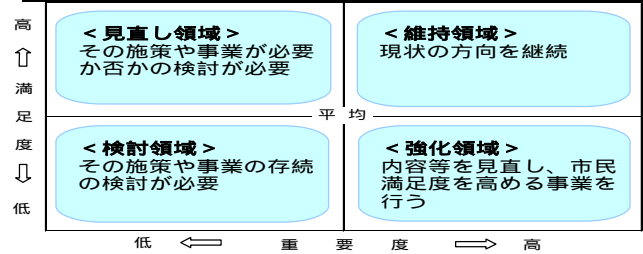
この施策の 平成24年度の 施政方針	平成24年度中に歴史文化基本構想を策定し、地域の資産を活かし、備前市らしいまちづくりができるよう努めてまいります。地域を代表する資源である備前焼については、備前歴史フォーラムを開催し、窯業地備前として情報発信を行います。閑谷学校の世界遺産登録推進は、世界遺産登録検討専門委員の指導を受けながら「近世の学び」を研究し、暫定一覧表登録に向けて事業を進めてまいります。また、閑谷学校の名前が多くの方々へ浸透するよう「旧閑谷学校世界遺産登録推進委員会」の事業の充実を図ってまいります。
--------------------------	--

< 備前市総合計画の内容から記載する >

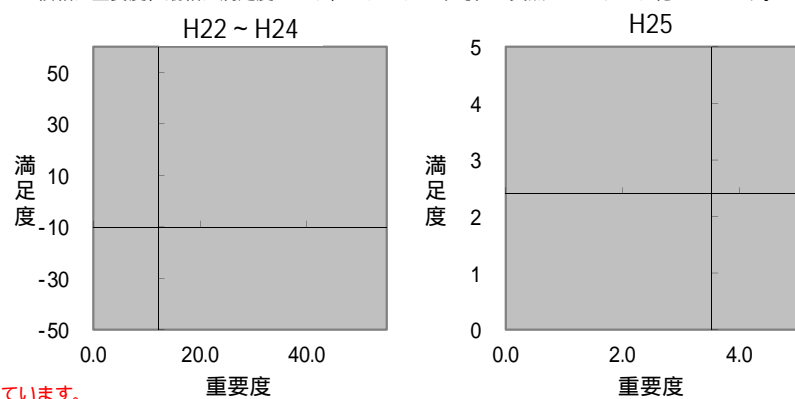
政策の体系	基本目標(大項目)	地域文化とひとが輝くまちづくり
	基本施策(中項目)	歴史と文化の輝くまちづくり
対象と目的 (誰のために、何のために)	旧閑谷学校や備前焼をはじめとするびぜんの歴史や文化財に関心のある人に対し、積極的に公開活用し、地域文化への理解をはかる。	
現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	本市に存する指定文化財等の保護・保存を図り、郷土を正しく理解する資料として活用するため、調査研究を進めなければならない。	
施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の保護・保存・活用 開発や腐朽・被災から守るためのパトロール実施 文化財の調査研究 備前焼フォーラム等による情報発信</li> <li>旧閑谷学校世界遺産登録の推進 旧閑谷学校世界遺産登録推進委員会による周知活動</li> </ul>	

市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度	H22	H23	H24	H25
重要度(%)				
満足度(%)				



横軸に重要度、縦軸に満足度をとり、それぞれの平均値を交点としてグラフ化しています。



H25から数値の採取方法を変更したため、別グラフで表示しています。

調査結果に対するコメント、市民の反応等	旧閑谷学校世界遺産登録検討専門委員会では、閑谷学校には近世の教育要素の全てが内包されており、正に「学びの原郷」と呼ぶにふさわしいと結論付けられた。
調査対象でない施策は、市民の反応等	

施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	過年度実績			評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
		H22	H23	H24			H25	H28
成果指標 世界遺産シンポジウム参加者数	目標	人	200	200	200	閑谷学校を理解するシンポジウムへの参加者数	H25	220
	実績	人	160	194	200		H28	250
	達成率	%	80.0	97.0	100.0		-	-
	ベンチマーク						-	-
参考指標 指定文化財等対応件数	目標	件	200	200	200	地域内文化財や文化遺産の調査・管理対応件数	H25	300
	実績	件	145	315	180		H28	300
	達成率	%	72.5	157.5	90.0		-	-
	ベンチマーク						-	-
参考指標	目標						H25	
	実績						H28	
	達成率	%					-	-
	ベンチマーク						-	-
参考指標	目標						H25	
	実績						H28	
	達成率	%					-	-
	ベンチマーク						-	-

目標達成に必要な新規事業(裏面 施策構成事務事業以外の事業)及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果

施策の評価

項目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判断理由(なぜ、そのランクと評価したのか)	
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか?	3	閑谷学校の価値については、多くの市民が日常的に触れていることから、改めて、あまり高いとは感じていない。しかし、本質的な価値に関するフォーラムは高い人気となっている。	
2 <事業構成の適当性> 手段は最適か?	3	文化財の保存を図る上で調査研究は不可欠である。国指定史跡「備前陶器窯跡」のうち伊部南大窯跡のように発掘調査に一応の目途がついたところから、活用を検討しなければならない。	
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは?	3	本市は古くから焼物を産していたことや交流の要地であったため埋蔵文化財包蔵地として知られている箇所が多数ある。地域の歴史研究はこの一面を考えても、長期的、継続的に実施していく必要がある。	
進行年度(H25年度)の取組内容 (課題解決状況)		旧閑谷学校が世界遺産暫定一覧表に登録されるよう、様々な識者に依頼し、調査研究をする。また、閑谷学校は江戸時代の様々な教育を、この施設だけで説明し得る「学びの原郷」であることを多くの市民に理解していただく取り組みを実施する。	
翌年度(H26年度)の取組目標		25年度実施の調査研究の成果を冊子にまとめ、文化庁へ報告する。備前焼の歴史については小規模発掘やフォーラム開催により調査研究や情報発信は進んでいる。今後は、備前陶器窯跡整備委員会の指導を受け、関係機関と協議しながら伊部西大窯跡の指定地の拡大を検討したい。	
二次評価者コメント		世界遺産登録を目指している閑谷学校を広くPRし、閑谷学校の素晴らしさをより多くの方に見に来ていただけるよう努めてください。	基本施策への貢献度 <b>3 中立</b>
役職 氏名	教育次長 岩崎 透		

